

ESG 経営の推進

東邦チタニウムグループは、ESGに対する取り組みを強化し、企業活動を通じてさまざまな社会課題の解決を実現していくことで、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

マテリアリティ(重要課題)の策定

マテリアリティに沿って当社とステークホルダーを取り巻く重要な諸課題の解決に取り組み、社会の持続的な発展に貢献し、長期的な企業価値向上を目指します。

	マテリアリティ	関連するSDGs	項目	目標(2030~2040年)	キャッチアップ戦略および2023-2025年度主要施策
E	地球環境保全への貢献	7 再生可能エネルギーを拡大し、気候変動に対処する	脱炭素社会の実現	2030年にCO ₂ 排出量を2018年比で40%削減し、2050年にカーボンニュートラル達成	<ul style="list-style-type: none"> チタン新製錬技術開発、CO₂フリー電力、カーボンニュートラルLNG導入等 ※2025年CO₂排出量19万t/y(2018年度比△25%)
		9 産業と資源効率の改善を通じた持続可能な成長を促進する			
		11 持続可能な都市とコミュニティを構築する	12 つくもの責任	環境安全に配慮した製品の開発	環境・安全性に配慮した新素材開発、技術改良、新規用途開発による複数製品化
		13 気候変動に具体的な対策を	持続可能な資源活用	2040年廃棄物最終処分量を2020年度比50%削減 サプライチェーン全体での廃棄物再利用	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーン全体での廃棄物再利用 原料のリサイクル推進、廃棄物の有効利用
S	社会への貢献	3 健康と福祉を	サプライチェーンにおける人権尊重	サプライチェーンに関わる全ての方々の人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤーの人権に対する取り組み調査、監査実施 全従業員の人権意識高揚
		4 質の高い教育をみんなに	地域社会共生	各地域での社会貢献や地域活性化への支援	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所での社会貢献や地域活性化への支援(地域のスポーツ・文化活動支援、近隣学校との共同ボランティア活動および工場見学受入れ等)
	5 ジェンダー平等を達成しよう	職場の労働安全衛生改善	重大な労働災害発生時の撲滅 健康的に働ける環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> JIS Q 45100の維持 JIS Q 45100に基づく労働安全衛生に関する諸活動の展開 	
	8 働きがいも経済成長も	多様性と包摂性	多様性と包摂性に配慮した職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> 女性管理職比率20%以上 新卒、キャリア採用者における女性比率20%以上の維持 	
	10 人や国の不平等をなくそう	働きやすい職場環境の整備	活力をもって働ける職場環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革に対応できる人員体制の確立 処遇条件向上 従業員満足度調査の継続実施による改善点の洗い出し・実行 	
		人材育成	全社員の自己成長を後押しできる基盤作りと教育の定着	<ul style="list-style-type: none"> 専門スキルの高い人材の積極的採用 サクセッションプランに基づく異動等により、幹部人材・中核人材の育成 	
G	経営基盤強化	16 平和と公正な社会を築くために	コーポレート・ガバナンス強化	CGコードの着実な運用	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素に向けた移行計画策定、開示 開示要求への適切な対応
			コンプライアンスの徹底	コンプライアンス違反ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のコンプライアンス意識の底上げ 職場特有の課題抽出&意識付け
			リスクマネジメント推進	全社的リスク管理システムの構築と適切な実践	<ul style="list-style-type: none"> 全社的リスクマネジメントの定着運用実施 リスク管理委員会によるPDCA 資産効率適正化

基本方針

当社グループは、「経営理念」に基づいて、E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)の視点で、事業活動を通して、自社とステークホルダーを取り巻く重要な諸課題の解決に取り組み、社会の持続的な発展に貢献し、長期的な企業価値の向上を目指します。

ESG浸透活動

ESG推進部で作成した資料に基づき、2022年度は各部署の部長、GMクラスに直接説明する機会を設けました。資料のコンテンツとして、ESGとSDGsの考え方、ESGが広まった背景および必要性、当社のマテリアリティと取り組み内容、組織等を盛り込みました。2023年度はこの内容を動画にして、全社に浸透させていきます。

推進体制



全社員向けのESG浸透活動2023年度資料

STAKEHOLDER ENGAGEMENT

東邦チタニウムグループでは、ステークホルダーの皆様との対話の充実による信頼関係構築は企業存続と持続的発展に不可欠であるとの考えに基づき、多様なコミュニケーションの機会を積極的に設け、相互理解を深めながら、ステークホルダーの皆様が当社グループに対する期待や要望を理解し、それらを企業活動に反映するよう努めています。

- p.39 株主・投資家
- p.43 取引先(パートナー)
- p.45 地域・社会
- p.48 社員および家族

ステークホルダーエンゲージメント

STAKEHOLDER ENGAGEMENT

株主・投資家

株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指し、迅速、適正かつ公平な情報開示とともに、積極的な情報発信を心掛けています。

お客様

当社グループでは、お客様の信頼に応え続けていくために、品質を最優先した製品・サービスの提供に努めています。また、お客様のニーズを的確にとらえ、製品・工程の改善を継続的に実現していくことで、お客様満足度の向上に取り組んでいます。

**取引先
(パートナー)**

当社グループは、「品質」「コスト」「納期」を満たした購入品の調達を実現するため、お取引様と相互信頼の関係に立ち、より良いパートナーシップを作り上げることを目指して、資材調達活動を実施しています。

地域・社会

当社グループでは、各地に所在する事業所において、地域社会の一員として皆様との調和を図りながら、企業市民として、社会と発展することができるよう、地域の活性化や将来を担う世代への支援などに取り組んでいます。

社員および家族

当社グループでは、社員一人ひとりの個性を尊重し、能力の開発に努めるとともに、魅力ある職場環境を実現するために、仕事と生活の両立支援や女性活躍推進などの人事諸制度や当社の未来を切り開く人材を積極的に育成する施策を実施しています。

ステークホルダーの期待・関心(例)

- 企業価値向上
- 適正株価
- 財務基盤の安定
- ROE、ROICの引き上げ
- 収益向上
- 安全操業
- ESG、SDGs推進
- タイムリーな情報提供

- 製品の高品質とサービスの提供
- 安定供給、サプライチェーンマネジメントの徹底、法令遵守
- 環境負荷低減推進
- 安全操業
- BCP対応
- 適正価格
- 設備投資

- 公平・公正・透明性のある取引
- サプライチェーンマネジメントの徹底、法令遵守
- 安全操業
- 事業継続性
- 環境負荷低減推進

- 地域との共存共栄
- 地域発展への貢献
- 安全操業
- 環境負荷低減推進
- 防災対応

- 安全最優先
- いきいきと働ける職場環境(健康、人権尊重、機会均等、法令に基づく労働条件の権利確保)
- 幅広い人材の活用(ダイバーシティ&インクルージョン)
- 環境負荷低減推進
- 教育、福利厚生他、各種制度の充実

コミュニケーションの機会

- 定期株主総会の開催
 - 投資家向け説明会の開催
 - 個別IRミーティングの実施
 - 事業報告書、統合報告書/CSRレポートの発行
 - 会社紹介パンフレットの発行
 - Webサイト等による情報配信
 - マスコミを通じたニュースリリースの配信
- ディスクロージャーポリシー**

- 営業部門を通じた日常的なコミュニケーション
 - 展示会へ出展
 - 会社紹介ビデオ、パンフレットを通じたご説明
 - Webサイト等による情報配信
 - マスコミを通じたニュースリリースの配信
 - 環境負荷低減、CO₂削減への貢献
- 品質方針 ISO9001・JIS Q 9100**

- 製品材料、資材等の調達
 - 品質監査、工程監査などの実施
 - 環境負荷低減、CO₂削減への取り組み
- グリーン調達ガイドライン、責任ある鉱物調達**

- 地域の皆様との対話
- 工場見学やサッカークリニックを通じた地域市民との交流
- ニュースリリースによる情報配信
- 官公庁への届け出、報告
- 環境負荷低減、CO₂削減への貢献
- 事故災害時の対応マニュアルの構築

- 年始式等での社長メッセージ配信
- 社内報、イントラネットを通じた情報配信
- グループ経営会議の開催
- 労働組合との協議
- コンプライアンスホットラインの運営
- 職場環境の整備
- 福利厚生確保
- 健康管理

ステークホルダーとの重要な協創価値(提供価値事例)

- 株価の向上
- 安定的な配当

- 営業活動を通じた顧客との定期コンタクトによる信頼向上
- 当社製品や技術情報の展示会を通じた認知拡大
- 製品配送時の可能な限りの最大積載量移送などお客様満足度の向上
- 原料調達先の品質監査実施による品質の確保
- 工程管理、物流管理の徹底による安定操業
- 触媒第4工場の増設
- ニッケル粉第5工場の建設着工

- 売買契約書、仕様書等の締結による公正な事業取引
- 原料の複数購買による調達リスク回避
- 持続的な取引による事業の安定化
- 仕入先定期品質監査を継続実施中
- 製品配送時のCO₂削減
- 製造コストに見合う価格の適正化

- 地域社会からの信頼向上
- 近隣住民工場見学会による安心、安全の理解度促進
- 製品配送時のCO₂削減
- 事故災害時の安心・安全の確保、事業継続

- 安全最優先の方針の下、作業環境改善
- 年1回以上の健康診断、メンタルヘルス・ケアによる社員の健康管理
- 全社員への事業状況や方針の周知によるグループの意思共有
- 毎月経営上の様々なテーマや従業員の労働条件の交渉・協議を実施
- 女性管理職比率、男性の育児休業取得率の向上
- 寮・社宅、各種イベント、レクリエーション等によるコミュニケーションの向上

マテリアリティの特定へ

マテリアリティ(重要課題)の特定プロセス

2021年11月、東邦チタニウムグループの「経営理念」「行動基本方針」「中長期基本方針」および国際的なガイドライン(GRI, SASBなど)を参考に、重要性の高い社会課題をマテリアリティとして特定しました。

STEP1 マテリアリティ候補抽出

ISO 26000, SASBなどの国際的ガイドライン、SDGsを参考に当社のマテリアリティ候補を抽出し、当社の「経営理念」、「行動基本方針」、「中長期基本方針」等も踏まえ、事業活動を通じて社会に貢献するために優先的に取り組むべきものとする。

企業の社会的責任(ISO 26000)

STEP2 優先順位付け

抽出したマテリアリティ候補を「当社にとっての重要度」と「ステークホルダーにとっての重要度」の2つの評価軸上でマッピングし(マテリアリティマップ)、優先順位をつけ、重要度の高い課題をマテリアリティとして抽出した。

STEP3 マテリアリティの特定

「経営理念」、「行動基本方針」、「中長期基本方針」を踏まえて整理し、経営層での議論を経てマテリアリティを特定した。同時に取り組み課題とKPIを整理した。

STEP4 開示・振り返り(PDCA)

活動実績の評価、事業環境の変化、ステークホルダーからの意見等を踏まえて振り返りを行い、適切に見直しを行っている。

マテリアリティ・取り組み項目の進捗状況を定量・定性面で管理 2022年度ESG活動実績および2023年度活動計画

マテリアリティ	取り組み内容と目標	2022年度総括	2022年度評価	2023年度計画
E 地球環境保全への貢献	脱炭素社会の実現 目標：2030年にCO ₂ 排出量を2018年比で40%削減し、2050年にカーボンニュートラル達成	KPI：CO ₂ 排出量(2022年度)、2018年度比で14%削減に向けた取り組みの推進 ・CO ₂ 排出量 2018年度比19%減(2018年度：25.7万t、2022年度：20.8万t) ・CO ₂ フリー電力およびカーボンニュートラル(CN)都市ガスおよびカーボンオフセットプロパンガス導入 ・廃熱の有効利用、高効率設備更新によるCO ₂ 排出量削減 ・新電源、エネルギー構想立案と検討 ・チタン新製錬パイロット設備での試験実施	○	KPI：CO ₂ 排出量、2018年度比で19%以上削減に向けた取り組みの推進 ・CO ₂ フリー電力契約およびCN都市ガスおよびカーボンオフセットプロパンガス導入によるCO ₂ 排出量削減継続 ・廃熱の有効利用、高効率設備更新によるCO ₂ 排出量削減継続 ・新電源、エネルギー構想立案と検討継続 ・チタン新製錬：実用化に向けた改良プロセスの量産技術開発促進
	環境安全に配慮した製品の開発 目標：環境・安全性に配慮した新素材開発、技術改良、新規用途開発による複数製品化	KPI：開発計画進捗率80%以上 ・WEBTパイロット設備の導入完了(対計画100%)、パイロット規模で生産中	○	KPI：WEBT量産設備の初期投資仕様確定、ノンフタレート触媒の高性能化 ・WEBTパイロット設備の操業で抽出された課題を反映、量産設備仕様を確定し投資判断
	持続可能な資源活用 目標：2040年廃棄物最終処分量を2020年度比50%削減。サプライチェーン全体での廃棄物再利用	KPI：2025年度最終処分量、2020年度比で10%削減に向けた取り組みの推進 ・若松工場から発生する汚泥処分先について、新たな処分先の調査未達 ・廃棄物の再利用方法検討(製品化含む) ・茅ヶ崎工場廃プラスチックの再資源化実施	△	KPI：最終処分量4,500t(2020年度比約6%削減)以下 ・汚泥最終処理を資源化できる処分先の探索 ・廃棄物の再利用方法検討継続(製品化含む) ・廃プラスチックの再資源化について全社展開
S 社会への貢献	サプライチェーンにおける人権尊重 目標：サプライチェーンに関わる全ての方々の人権尊重	KPI：サプライチェーンの人権調査の実施、人権研修受講率100% ・「ホワイト物流」の推進 ・鉱物調達における調査のワークフローを確立し、運用を開始 ・CMRT, EMRTの入手継続 ・「社内人権研修」の実施	○	KPI：サプライチェーンの人権調査の実施、人権研修受講率100% ・「ホワイト物流」実施 ・「責任ある鉱物調達」実施 ・サプライヤーへCSR調達セルアセスメント質問表の運用開始 ・「社内人権研修」実施
	地域社会共生 目標：各地域での社会貢献や地域活性化への支援	KPI：地域貢献活動の実施 ・サッカー部等による地域活動継続(サッカークリニック、清掃活動等) ・寄付金付き自動販売機、地元オーケストラ支援(神奈川、北九州) ・小中学校の校外学習、高等学校工場見学受け入れ(茅ヶ崎、北九州) ・鶴嶺高校JRC部との北茅ヶ崎駅前花壇づくり ・茅ヶ崎市「ホノルル市・都との姉妹都市交流事業」への寄付	○	KPI：地域貢献活動の実施 ・サッカー部による地域活動継続 ・2022年度実施の寄付・協賛・ボランティア・清掃活動を継続実施 ・小中学校校外学習、高等学校工場見学等の積極的な受け入れ ・茅ヶ崎施設のネーミングライツ取得
	職場の労働安全衛生改善 目標：重大な労働災害発生の撲滅 健康的に働ける環境の実現	KPI：休業4日以上災害年千人率0.7以下(1件/年以下)、がん検診率70%以上 ・休業災害発生なし ・がん検診率は前年度並みに止まり目標未達 ・JIS Q 45100の維持および対象事業所の拡大 ・メンタルヘルス研修実施	△	KPI：休業4日以上災害年千人率0.7以下(1件/年以下)、がん検診率70%以上 ・安全教育に関する動画システムの活用継続 ・定期健康診断の診断項目に大腸がん検査等追加 ・定年延長を受け高齢労働者の現場配置に関する課題検討
G 経営基盤強化	多様性と包摂性 目標：多様性と包摂性に配慮した職場の実現	KPI：障がい者雇用率2.3%以上の維持・向上、採用者の女性比率を20%以上 ・障がい者求人活動、雇用障がい者との面談実施。障がい者雇用率は2.3% ・2022年度の女性採用比率は22%	○	KPI：障がい者雇用率2.5%以上の維持・向上、採用者の女性比率を20%以上 ・障がい者雇用率2.5%以上 ・製造現場を女性が働きやすい職場に改善する活動
	働きやすい職場環境の整備 目標：活力をもって働ける職場環境の実現	KPI：年休取得率85%、育休取得後復職率100%、新卒者の3年後定着率70%以上 ・年休取得率84.3%と若干目標未達 ・育休取得後復職率100% ・新卒者(学卒・高卒)の3年後在籍率は62%と目標未達 ・従業員満足度調査を実施し、課題を確認。労働協約改定など処遇向上に反映	△	KPI：年休取得率90%、育休取得後復職率100%、新卒者の3年後定着率70%以上 ・労使双方から年休の計画的取得に関するメッセージを発信 ・交替勤務者が年休を取得しやすい環境を整備 ・入社1年目および3年目フォロー面談 ・従業員満足度調査継続および前年度の調査結果のフォローアップ
	人材育成 目標：全社員の自己成長を後押しできる基盤作りと教育の定着	KPI：人材育成計画に基づく効果的な研修の実施 ・通信教育受講料の会社負担を引き上げ ・2022年度教育計画に基づき教育を実施	○	KPI：人材育成計画に基づく効果的な研修の実施 管理職(係長GM含む)の第一種衛生管理者資格取得率60%以上(現行46%) ・通信教育受講料補助継続 ・管理職の第一種衛生管理者資格取得
G 経営基盤強化	コーポレート・ガバナンス強化 目標：CGコードの着実な運用	KPI：プライム上場企業対象への原則に対応したCG報告書提出および提出後の開示内容更新 ・TCFD対応。「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」の開示内容確定。株主総会後、HPIに開示、CG報告書に記載 ・気候変動対応に対する移行計画の要素検討開始 ・ESG情報開示の新たな基準の動向ウォッチと対応 ・人事・報酬等諮問委員会および役員会(取締役会・執行役員会)にて実効性評価結果確認と開示内容等確定	○	KPI：サステナビリティ情報の適切な開示 ・TCFD対応。気候変動に関する移行計画要素を整理 ・ESG情報開示の新たなISSB/SSBJ基準の動向調査継続と対応 ・有報、統合報告書、HP等へのサステナビリティ情報開示 ・人事・報酬等諮問委員会および役員会にて実効性評価結果確認と開示内容等確定
	コンプライアンスの徹底 目標：コンプライアンス違反ゼロ	KPI：企業倫理推進委員会で承認された活動の遂行 ・安全環境コンプライアンス調査。若松ニッケル粉現地調査実施 ・遵法点検実施。過年度分含めてフォローアップ ・コンプライアンス教育。役員管理職教育、従業員教育、新入社員教育、中途入社教育実施	○	KPI：企業倫理推進委員会で承認された活動の遂行 ・安全環境コンプライアンス調査フォローアップ ・遵法点検実施。過年度分含めてフォローアップ ・各種コンプライアンス教育実施
	リスクマネジメント推進 目標：全社的リスク管理システムの構築と適切な実践	KPI：リスク管理委員会で承認された活動の遂行 ・RMSの更新：重要リスクの再選定、重要リスク対策の進捗管理、以上への経営層の関与を含んだ試行と仮標準化 ・BCP：各拠点の実効性改善フォロー継続	△	KPI：リスク管理委員会で承認された活動の遂行 ・更新RMSの定着：中期経営計画に基づく次PDCAサイクルの遂行と標準化、社員浸透活動 ・BCP：各拠点の実効性改善フォロー継続。並行してサプライチェーンマネジメント・マルチハザード化視点の強化